1 **F川町在住)**

あり方も議論した。

『山壊し』に警鐘

る。 さん (49) が危惧す の元職員・富岡達彦 と、下川町森林組合 のかも見えない との提携で何をする ではないか。国有林 え方と違ってきたの 原田四郎前町長の考 くりに熱心だった 保が優先され、(森づ 木質バイオマスの確 な機能よりも伐採や き直したものが目立 業再生プラン』を焼 画は国の『森林・林 つ。町有林は公益的 環境未来都市計

採をくり返したこと これまでの経験を踏 に対する反省がな 鐘を鳴らす。 まえ、富岡さんが警 施策に重点を置く。 生産コストを下げる 増やし、林道の路網 密度を高め、木材の 計画は、伐採量を 「そこには過剰伐

> く。国の路網整備を 同じような結果を招 集成材部門の行方 が壊れてしまう」。 鵜呑みにすると、山

網の高密度化を重点 やす目標を設定。路 30億円 (15年) に増 24億円 (11年) から 産業の年間生産額を 計画では林業・林 は森林組合も原材料 生産される。後者に

と、針葉樹を原材料 る森林組合の工場 目板などの製品を作 る民間の「ウッディ に構造用の製品を作 しもかわ」の2つで

伐採から製品の出荷 場がなくなるなか、 近隣の町に製材工

の収益で赤字を吸収 協力を得て他の事業 したと思う」と振り

し、地域産業に貢献

のが両立できるの か、岐路に立たされ を務めた梅坪龍雄さ 工部門と組合そのも んも「集成材など加

ているのは事実」と 長く同組合の役員

> 業関係者の一人がこ 標を記しても、それ になってしまう。林 人増やす」などの目

う。大量の外材が押 『コストを下げよ 疎化が進んでしま 型化すると田舎の過 と言うが、工場を大 この業界だ。計画に 潤を得られないのが う指摘する。「適正和 を積み重ねた数字。 あるのは無理なもの

し寄せるなか、わず

果たす義務もある。

保育などに投資する 現実を踏まえ、今は

しかない。国・道有

木は少なくなってき は、「研究林にも太い

た。広葉樹が減った

ろを区分けするとい

い。下川には林業に

明るい人材が大勢い

える努力が必要であ 面がある。住民に伝 中身まで分からない 格を見せられても、 の取り組みを評価し と注文をつけた。 り、説明会などの機 は、「我々も計画の骨 てきた山下組合長 来を創るもの」と町 会を増やすべきだ 北大雨竜地方研究 「計画は明るい未

> ていい森林と、しば の手本を示し、伐っ 林が正直な森林管理

らく伐採しないとこ

教授・林業経済学) 三郎さん(北大名誉 林長も務めた神沼公 どうか」と提案す 方に英知を集めては る。森林利用のあり



元実を踏まえ、

代表を務めた。「再生 生活の前身)の初代 の運転などに従事 の仕事に転身。重機 議会の傍聴に下川と (NPO法人・森の ノラン」をめぐる審 私鉄の車掌から山 さーくる森人類 いスパンで考えない る技術者は一朝一夕 見据えた仕事ができ でも、20~30年後を 出することになる。 重機を入れて材を搬 伐採量だと、大きな くに増やす)計画の には育ちません。長 い。(5年間で3倍近

や木質バイオの拡 に、森林認証の取得 ある集成材部門の扱 どを列挙している。 は、針葉樹や広葉樹 いには触れていな 大、木製品の普及な 一方で、懸案事項で 下川産の集成材 ・販売に至る一貫体

ングや家具向け、羽 を原材料にフローリ てきた。そのなか で、組合員や地域の く、大変な思いをし さしい状況ではな クになっている。 続き、経営上のネッ 集成材部門は赤字が 系を保持してきた。 「この20年間、生や 山下邦廣組合長は だが、森林組合の

で残す方針という。 同部門の株式会社化 材部門を分離する形 していく。課題は尽 転換する方法を検討 第3セクターなどに や組合の関連組織、 今後、組合と集成

従事者を5年間で80 「林業・林産業の

審議会では町有林の 東京を往復し、町の

と、渓和地区の森林

が強風で倒れた時と

きな影響を受けてし まうのが実態なん かな為替の変動で大

話す。

ではないのか。 寄り添い、地道な取 林業関係者の苦悩に を急ぐ前に、行政は り組みを進めるべき した補助事業の導え 町には説明責任を 机上プランを基に

方向づけが課題になっている 森林組合の集成材部門は赤字が続く。 今後の